

## 兄弟げんかが子どもを成長させる②

兄弟げんかも子どもが4～6歳くらいになると、ある程度自分をコントロール出来るようになってきます。

手加減したり、言葉で話しが出来るようになります。

年齢にもよりますが、お互いがやり合えるようになってきたら、原則として「親は立ち入らない」のが大切だといわれています。

兄弟げんかを通して、子どもなりに、コミュニケーションや人との関わり方を学んでいて「手加減の仕方」や「ケンカの終わらせ方」を知る機会でもあります。

ただ、あまりにもエスカレートして、大きな怪我をしそうだったり、一方的な場合は止めに入ったほうが良い事もあります。

その時に気をつけたいのは、「下の子ばかりをかばわない」事。

「お兄ちゃん、お姉ちゃんでしょ」といいたいくなる気持ちもありますが、きっと上の子も理由があるのです。兄弟は、親の愛をもらう上でのライバル関係。

かわいそうだからと下の子どもばかりをかばっていると、「どうせ自分なんか・・・」と上の子どもが傷ついてしまう事もあります。

「自分より小さい子どもに優しくする、思いやる」といった事は、まず「自分自身が大事にされている」という感覚があってこそ、初めて出来るようになります。

人との関わり、コミュニケーションを学ぶためにも大切な「兄弟げんか」。

基本的には、大らかに見守ってあげられたら良いですが、裏に子どものストレスが隠されていないか、注意してみてあげて下さいね。